

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース/山本 準

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

教育においては、学生がより良き教員になれるよう、講義・演習・ゼミを通して教師としての実践力を高めると共に役立つような教育指導を行っていく。特にゼミ生には、修士論文および卒業論文作成の指導をするとともに、教員採用試験のための面接や小論文への対策と指導を行う。

2. 点検・評価

学部ゼミの4回生に対し個人面接の練習、小論文の添削などを、数度にわたって行った。学生は無事、教員採用試験に合格した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

教育に関しては一方的な講義という授業をすることなく、学生との双方向的な授業を展開するよう心がける。具体的には、学生の発言を促し、また学生の意見も聞きながら授業を展開する。また演習等を利用し、学内だけでなく学外での学習活動を積極的に進めるようにする。さらに学生個々の生活状態や学習状態に配慮し、安心して学生生活が過ごせるように指導する

2. 点検・評価

授業は一方的な講義になることのないよう配慮し、質疑応答や討論などを重視した講義を行った。学部1年生の担任でもあり、1年生の履修相談やその他の様々な相談を受け、順調に大学生活に適応していけるようにアドバイスした。また学部ゼミ生、大学院ゼミ生に対しても、研究上のアドバイスをするだけでなく、生活上の悩みなどの相談にも応じた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

現在研究中の四国八十八か所の写し霊場の調査研究をまとめる。徳島県内に存在する写し霊場の調査はほぼ終了したが、まだ数か所の霊場の調査が残されているのでそれを完了する。また、従来から研究を続けていた、近代化過程における人口構造の変動についても研究を進める。

2. 点検・評価

四国八十八か所の写し霊場の調査は、県南部と県北部の霊場調査はほぼ終了したが、県西部の実態調査が残っている。調査を済ませ、早急に成果をまとめたいと思っている。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

学内の各種委員会の委員としての活動を通して、大学運営に寄与する。

2. 点検・評価

学部入試委員、センター運営委員などの学内の各種委員会の役目は十分に果たせたように思う。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

社会との連携に関しては、地域の審議会や委員会等への委員の就任を要請された場合、積極的に参加し地域への協力と連携を行う。

附属学校との連携に関しては、教育課題探究で附属学校・園からの要請があれば積極的に応じることとする。

国際交流に関しては、留学生が安心して研究できるように環境整備に努めるとともに、生活の支援にも細心の注意を払うこととする。

2. 点検・評価

附属学校との連携でいえば、社会学という科目的特性もあるのか、現場からの依頼や協力要請は何もない。附属学校や地域の学校に対して、こちらからも進んで現場に働きかけなければならないと考えている。

昨年は、徳島労働審議会の会長となり、徳島の労働行政の方針決定に寄与できたものと思う。また鳴門市の情報公開審査会やその他の委員会、美馬市などの各種の委員会の委員を務め、地域社会の行政に協力してきた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特記事項なし